

1-3

口腔ケア向上への取り組み

口腔ケアをきっかけに個別ケアの取り組みを実践

意識向上

誤嚥性肺炎

特別養護老人ホーム 養浩荘

介護主任 山口 幸一郎

介護職員 加藤 あかね

東京都豊島区池袋4-25-10

TEL : 03-3971-6541

E-mail : yokoso@apricot.ocn.ne.jp

FAX : 03-3971-8254

URL : http://frontier-toshima.or.jp

今回の発表の施設
またはサービスの
概要 10p

社会福祉法人フロンティア豊島が母体である養浩荘は昭和56年10月9日に開設した、豊島区で最も古くからある50床の特養です。昔からのなじみで地域とのつながりが強く、また池袋駅から徒歩10分と恵まれた立地条件から家族の面会が多い施設です

それまでの現状

利用者要介護度 4.2 認知症 49 名 経管栄養 7 名で殆どの利用者に口腔ケアに介護が必要な現状のなか職員自身口腔ケアに対する必要性を認識しておらずケアが不十分であった。

食後口腔ケアせずに臥床することがあった。義歯の利用者の歯を外さずに本人任せの口腔ケアをさせていた

経管利用者の口腔内や歯肉に唾液や痰が粘膜状になってくっついていて状態だった。利用者によっては口臭がかなりひどく室内中が臭うほどの状態だった。このような不備のある口腔ケアでは当然のごとく誤嚥性肺炎を発症するケースが多かった

〈取り組んだ課題〉

- 口腔ケアの必要性に対する認識の統一と意識の向上
- 経管栄養利用者の誤嚥防止のための口腔ケア
- 義歯の作成によって以前の顔の表情を取り戻し、社会性を持つ

〈具体的な取り組み〉

- 職員ミーティングにて口腔ケアの不備が誤嚥性肺炎等、重大な事故を引き起こすことを認識しあった
- 口腔ケア担当を設け利用者の口腔状態の把握、職員全体に口腔ケアの重要性を認識させた
- 業務内に口腔ケア専任の職員を増員し、口腔ケアを重要な業務の一つとして行った。従来口腔ケアを医務が主に行っていたが、介護業務にも取り入れ職員一人ひとりの意識向上を図った
- 口腔ケア個人表の作成
- 介護・医務の連携により、利用者の性格を把握した上でのスムーズな歯磨き指導を行う
- 施設内研修にて「口腔ケア研修」を行い技術の向上

○ 経管栄養の利用者の口腔ケア

- ・ 一日3回の徹底した歯磨き
- ・ イソジナーゼを設置し、随時口腔ケアしやすい体制づくり
- ・ 舌ブラシ、吸引付きブラシの導入

- 食事前にコップ、歯ブラシ等口腔ケア必要物品を準備しケアしやすい環境整備、職員間の連携強化

〈活動の成果と評価〉

- 最初は口腔ケア時に歯肉から出血してしまう利用者が目立ったが、ケアを継続する中で減少していった。全体的に口腔の状態が回復した
- 経管栄養の利用者の口腔ケアを徹底したことで口臭の軽減にあわせて誤嚥性肺炎の発症が減少した
- 個別表により口腔内状況の把握がしやすく、またDrとの早い連携が取れるようになった
- 義歯作成し咀嚼良好になったことで食事形態を常食に戻すことが出来た
- 義歯があることで大きく口を開けて笑うようになり、表情に自信が戻った
- 介護職員一人ひとりが口腔ケアに対する意識向上がみられ、自発的に外部研修等に参加する積極性が表れた
- 利用者の目に見える改善に職員一人ひとりが自信を持ち、個別ケアへの意欲がついた

〈今後の課題〉

- 義歯作成可能な利用者でも、金銭面で本人、家族の理解が得られない事がある
- むせ込み、飲み込みの悪い利用者への口腔ケアを行うと共に、口腔マッサージも取り入れていく